

こやまこども園

【特によいと思う点】

○園外での活動を積極的に取り入れているため、園児は五感で自然を感じながら、自らの気づきや発見に基づいて、多くのことを学んでいます。

園児は園内外での自然に日常的に触れ、季節感を取り入れた園生活の体験によって、季節の変化に気づき、園児自身が身体全体で感じ取る体験を重ね、四季折々の変化に触れることによって園児の心も豊かに育まれています。自然と出会い、感動するような体験は、自然に親しみ、愛情を育てるばかりでなく、科学的な見方や考え方の芽生えを培う上で基盤となる大切な経験です。また、自然との出会いで園児の心は安定し、主体的に自然に触れることによって好奇心や探求心も生まれ、どうしてこうなのだろうと、思考力を働かせることにつながります。自然に直接、触れる機会を大切に、設定することは園児にとって大きな意味をもちますので、今後も継続した取り組みを期待します。

○異年齢交流を積極的に行い、遊びの環境を工夫することで、園児同士の様々な関わりが見られ、友だちと一緒に活動する楽しさを味わっています。

異年齢で関わることによって、他の園児への憧れから、他の園児の動きを模倣したりする中で、周囲の物や遊具などとの多様な関わり方を学んだり、新たな遊びを体感したりして、それらを自分の中に取り込み、自ら行動するようになっていきます。また、共に活動する中で、皆でやってみたいという気持ちが生まれ、工夫したり協力したりするようになってきています。この過程の中で、自分の思いを伝え合い、話し合い、自分の役割を考えて行動したりするなど、力を合わせて協力することの楽しさを味わっています。時には自己主張がぶつかり合うこともあるでしょうが、園児が友達を受け入れながら共通の目的の実現のために根気強く取り組んでいくことができていると思われます。

【さらなる改善が望まれる点】

○行事や計画等に追われるのではなく、園児が興味のある遊びや活動にじっくり楽しみながら取り組める時間の確保や環境の設定を期待します。

園児は、発達や生活経験に応じて、自らが生活の中で感じたことや考えたことを様々に表現しようとしています。それは、体験したことを再現して楽しむこともありますし、さらに工夫を重ねてイメージを広げるものであったりします。そのような園児の表現する楽しみや意欲を十分に発揮させるためには園児が園生活の中で喜んで活動をする場面を捉え、表現を豊かにする環境としての遊具や用具などを指導の見通しをもって準備する必要があります。そのためには、発達や興味・関心に応じて材質、形態、使いやすさを考慮し、整備していくことが大切です。保育教諭等においては、園児が互いの活動を見たり聞いたりして相手の表現を感じることができるようにより場や物の配置に配慮したり、時には一緒にやってみたりして相互に響き合う環境を整え、じっくり取り組めるように時間を確保していくことが大切です。

○園児の行う活動は、個人、グループ、学級全体など多様に展開されるものであることを踏まえ、全職員の協力体制を作り、必要な情報を共有しながら、園児一人一人が興味や欲求を十分に満足させるような適切な援助を行うようにすることが期待されます。

集団の中でも園児一人一人が自己を発揮できる場であるためには、保育教諭等と園児、さらに園児同士の心のつながりがある集団であることが重要です。このような指導の充実を図るためには学級を基本としながらもその枠を超えた柔軟な集団での指導を行うことが必要です。職員同士が必要な情報を共有し、園児や保護者とのコミュニケーションを図り、園児一人一人に適切な援助を提供することが求められます。教育及び保育の展開をそれぞれの保育教諭等が強みや持ち味を生かしながら援助を行っていくためにも職員研修等の工夫や職員間の情報共有等のさらなる充実が求められます。

学校法人冬木学園
畿央大学
教育学部 現代教育学科
准教授 山根 康代